

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-300112

(43)Date of publication of application : 12.12.1990

(51)Int.Cl. A61K 7/155

(21)Application number : 01-120298 (71)Applicant : MITAJIRI KAGAKU KOGYO KK

(22)Date of filing : 16.05.1989 (72)Inventor : YOSHINO KAZUO
INOUE NOBUMI

(54) PACK CONTAINING DEPILATORY

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a depilatory-containing pack having the action of removing hair of the body as well as keeping the face and body in beautiful and healthy state and especially reducing the pain of the skin compared with conventional peel-off pack by compounding a depilatory to a pack.

CONSTITUTION: The objective depilatory-containing pack having the above effects can be produced by compounding a beauty and health pack to be applied to the face or body with a depilatory preferably composed of (A) one or more metal salts selected from alkaline-earth metal salts and alkali metal salts of thioglycolic acid, the component A and (B) one or more hydroxides selected from hydroxides of alkali metal and alkaline-earth metal, the component B and (C) thioglycolic acid, the components A, B and C, thioglycerol, or an alkali metal or alkaline-earth metal sulfide. When the pack is used as a peel-off pack, hair can be almost completely removed without giving pain to the skin in peel-off.

LEGAL STATUS [Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-300112

⑬ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)12月12日

A 61 K 7/155

8314-4C

審査請求 未請求 請求項の数 7 (全6頁)

⑮ 発明の名称 除毛剤入りパック

⑯ 特 願 平1-120298

⑰ 出 願 平1(1989)5月16日

⑱ 発 明 者 能 野 一 雄 山口県防府市大字新田1020番地の5

⑲ 発 明 者 井 上 信 美 兵庫県川西市向陽台3丁目3-7

⑳ 出 願 人 三田尻化学工業株式会社 山口県防府市大字浜方27番地の1

㉑ 代 理 人 弁理士 平木 祐輔 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

除毛剤入りパック

2. 特許請求の範囲

1. パックに除毛剤を配合して成る除毛剤入りパック。

2. 上記除毛剤がチオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の金属塩として成る請求項1記載の除毛剤入りパック。

3. 除毛剤がチオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の金属塩及びアルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の水酸化物として成る請求項1記載の除毛剤入りパック。

4. 除毛剤がチオグリコール酸及びアルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の水酸化物として成る請求項1記載の除毛剤入りパック。

5. 除毛剤がチオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の金属塩及びチオグリコール酸、並びにアルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の水酸化物として成る請求項1記載の除毛剤入りパック。

6. 除毛剤がチオグリセリンとして成る請求項1記載の除毛剤入りパック。

7. 除毛剤がアルカリ金属のアルカリ土類金属の硫化物として成る請求項1記載の除毛剤入りパック。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は主にボディに塗布する美容・健康用のパックに除毛剤を配合し、その毛を除去すると同時にこのようなパックが特にピールオフ型の場合、ピールオフする時、痛みを感じない作用を持つ除毛剤入りパックに関する。

(従来の技術)

従来、顔やボディに塗布する美容・健康用のパックには様々なものがあり、形態からいうと、液状（ゼリー状、ゲル状も含む）、クリーム状、粉末状、塗布型オイルパック等が挙げられ、液状（ゼリー状、ゲル状も含む）のパックはピールオフ型拭き取り型、洗い流し型等の除去形式、クリーム状のパックはピールオフ型、洗い流し型等の除去形式、粉末状のパックは化粧水、乳液、卵、果汁、蜂蜜等に溶解し、クリーム状にしての洗い流し型等の除去形式湿布下オイルパックは拭き取り型、洗い流し型等の除去形式を主に持つものであった。そして、これらのパックは、顔のみならずボディ、特に首、肩、腕、脚等の部分にも用いられ、肌のたるみをひき締め皮膚表面の汚れを除去し、肌の美容・健康を保持するもので（i）パックが次第に乾燥するにしたがって皮膚に緊張を与え、皮膚の温度が上昇し、血行がよくなる。（ii）皮膚面から蒸発する水分がパック膜の下に溜まり、これが、表皮角質層を柔軟にし皮孔を拡げることにより、パック中の有効成分が皮膚に吸

収され易くなる。（iii）パックの吸着作用により皮膚表面の洗浄が行なわれるので物理的・化学的・薬理的効果・作用を持つものであり、その薬理成分も上述の作用にしたがう薬効を持つものであった。

次に、従来、除毛化粧品にも様々なものがあり、その形態からいうと、クリーム状、ワックス状、乳化状、パック状、エアゾール状、ムース状のものが挙げられ、その薬理成分は硫化ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化カルシウム（以上無機除毛剤）、チオグリコール酸ベリリウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ストロンチウム、チオグリコール酸バリウム等のチオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸カリウム、チオグリコール酸ルビジウム、チオグリコール酸セシウム等のチオグリコール酸のアルカリ金属塩類、その他チオグリセリン（以上有機除毛剤）等々のものであった。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、従来のパックは顔やボディの美容・健康を保持するだけのものであり、また、従来の除毛化粧品はワックス状のものは後で除去する時に落とすににくい、パック状のものは後で除去するときに痛みを伴う、ムース状のものは肌に塗布する際むらができて一様に脱毛できない等々の欠点があり、ボディの毛を除去するだけのものであり、これら2種の化粧品の効能を同時に有する化粧品は従来になかった。故に本発明は上述の欠点を克服しつつ、上述の2種の化粧品の効能を同時に有する全く新規な化粧品を提供することを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

上記目的を達成するため本発明はパックに除毛剤、特にこの除毛剤がチオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類のうちから選ばれる1種又は2種以上の金属塩として成る除毛剤入りパック、また、この除毛剤がチオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類

のうちから選ばれる1種又は2種以上の金属塩及びアルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物のうちから選ばれる1種、又は、2種以上の水酸化物として成る除毛剤入りパック、また、この除毛剤がチオグリコール酸、及び、アルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物のうちから選ばれる1種又は2種以上の水酸化物として成る除毛剤入りパック、また、この除毛剤がチオグリコール酸及びアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類のうちから選ばれる1種又は2種以上の金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物のうちから選ばれる1種又は2種以上の水酸化物として成る除毛剤入りパック、また、この除毛剤がチオグリセリンとして成る除毛剤入りパック、また、この除毛剤がアルカリ金属、アルカリ土類金属の硫化物として成る請求項1記載の除毛剤入りパックを新たに提供する。

〔作用〕

チオグリコール酸のアルカリ土類金属塩類、アルカリ金属塩類は特異な還元力によりボディの毛

を溶解する作用があり、また、アルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物は pH を上げるため上記作用を相乗的に促進する。また、チオグリコール酸ナトリウム等皮膚に対して刺激の強いものはチオグリコール酸と水酸化ナトリウムを加えながらブレンドし、最終的にチオグリコール酸ナトリウムとすれば、上記同様の作用が得られる。更に、アルカリ金属類、アルカリ土類金属類の水酸化物を併用すれば pH が上がるため、毛の溶解作用を相乗的に促進する。そして、これらの除毛剤を加えたパックは除去形式が特にピールオフ型の場合にはピールオフする時、毛をほぼ溶解しているため、痛みを感じないと同時に、ピールオフする際、不完全ながら残っている毛を吸着力によってほぼ完全に除去する。

(実施例)

以下、本発明を具体的な実施態様を用いてより詳細に記述していくが、本発明はこれらに限定されるものではない。

<実施例1>

一昼夜放置した。翌日グリセリン、酢酸ビニルエマルジョン、エチルアルコール残部に溶解させたチオグリコール酸カルシウム、水酸化カルシウム、香料、防腐剤、オリーブ油を加え、かき混ぜて均一なクリーム状とした。

このようにして得たクリーム状の除毛剤入りパックをボディの表面に厚さ約3mmに一様に塗り、約15分後、ピールオフしたら痛みをほとんど感じなく、その毛が完全に除去された。

<実施例2>

クリーム状の形態でピールオフ型の除去形式である除毛剤入りパックを以下のような処方、製法で調製した。

(処方)

| | |
|---------------|-------|
| 酢酸ビニル樹脂エマルジョン | 15.0% |
| ポリビニルアルコール | 10.0% |
| オリーブ油 | 1.0% |
| グリセリン | 2.0% |
| 亜鉛華 | 8.0% |
| カオリン | 6.0% |

クリーム状の形態で、ピールオフ型の除去形式である除毛剤入りパックを以下のような処方、製法で調製した。

(処方)

| | |
|---------------|-------|
| 酢酸ビニル樹脂エマルジョン | 15.0% |
| ポリビニルアルコール | 10.0% |
| オリーブ油 | 1.0% |
| グリセリン | 2.0% |
| 亜鉛華 | 8.0% |
| カオリン | 6.0% |
| チオグリコール酸カルシウム | 6.0% |
| 水酸化カルシウム | 2.0% |
| エチルアルコール | 4.0% |
| 精製水 | 46.0% |
| 香料 | 適量 |
| 防腐剤 | 適量 |

(製法)

エチルアルコールの一部でポリビニルアルコールを湿潤し、亜鉛華、カオリンを分散させた精製水に加え70℃に加熱し、ときどきかき混ぜながら

| | |
|----------|-------|
| チオグリコール酸 | 6.0% |
| 水酸化ナトリウム | 1.5% |
| エチルアルコール | 4.0% |
| 精製水 | 46.5% |
| 香料 | 適量 |
| 防腐剤 | 適量 |

(製法)

エチルアルコールの一部でポリビニルアルコールを湿潤し、亜鉛華、カオリンを分散させた精製水に加え70℃に加熱し、ときどきかき混ぜながら一昼夜放置した。翌日グリセリン、酢酸ビニルエマルジョン、エチルアルコール残部に溶解させたチオグリコール酸、水酸化ナトリウム、香料、防腐剤、オリーブ油を加え、かき混ぜて均一なクリーム状とした。

このようにして得たクリーム状の除毛剤入りパックをボディの表面に厚さ約3mmに一様に塗り、約15分後、ピールオフしたら痛みをほとんど感じなく、その毛が完全に除去された。

<実施例3>

液体の形態でピールオフ型の除去形式である除毛剤入りバックを以下のような処方、製法で調製した。

(処 方)

| | |
|----------------|-------|
| ポリビニルアルコール | 14.0% |
| ○カルボキシメチルセルロース | 4.0% |
| ○チオグリコール酸カルシウム | 4.0% |
| チオグリコール酸 | 4.0% |
| 水酸化ナトリウム | 1.0% |
| ○グリセリン | 4.0% |
| エチルアルコール | 8.0% |
| 精製水 | 61.0% |
| 香 料 | 適 量 |
| 防腐剤 | 適 量 |

(製 法)

防腐剤を入れた精製水にカルボキシメチルセルロースと一部のアルコールで湿潤したポリビニルアルコールを加え、70℃に加熱し、ときどきかき混ぜながら一昼夜放置した。翌日チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸、水酸化ナトリ

(製 法)

防腐剤を入れた精製水にカルボキシメチルセルロースと一部のアルコールで湿潤したポリビニルアルコールを加え、70℃に加熱し、ときどきかき混ぜながら一昼夜放置した。翌日チオグリセリン、グリセリン、エチルアルコール残部、香料、防腐剤を加え、均一に混合し、かき混ぜながら冷却した。

このようにして得た液状の除毛剤入りバックをボディの表面に厚さ約1mmに様に塗り、約20分後ピールオフしたら、痛みをほとんど感じなく、その毛が完全に除去された。

<実施例5>

クリーム状の形態で洗い流し型の除去形式である除毛剤入りバックを以下のような処方、製法で調製した。

(処 方)

| | |
|------------|------|
| ビーガム | 5.0% |
| 流動パラフィン | 2.0% |
| プロピレングリコール | 4.0% |

ウム、グリセリン、エチルアルコール残部、香料、防腐剤を加え、均一に混合し、かき混ぜながら冷却した。

このようにして得た液状の除毛剤入りバックをボディの表面に厚さ約1mmに様に塗り、約20分後ピールオフしたら、痛みをほとんど感じなく、その毛が完全に除去された。

<実施例4>

液体の形態でピールオフ型の除去形式である除毛剤入りバックを以下のような処方、製法で調製した。

(処 方)

| | |
|---------------|-------|
| ポリビニルアルコール | 14.0% |
| カルボキシメチルセルロース | 4.0% |
| チオグリセリン | 10.0% |
| グリセリン | 3.0% |
| エチルアルコール | 8.0% |
| 精製水 | 61.0% |
| 香 料 | 適 量 |
| 防腐剤 | 適 量 |

| | |
|---------------|-------|
| 亜鉛華 | 8.0% |
| カオリン | 8.0% |
| チオグリコール酸カルシウム | 6.0% |
| チオグリコール酸リチウム | 2.0% |
| エチルアルコール | 4.5% |
| 精製水 | 60.5% |
| 香 料 | 適 量 |
| 防腐剤 | 適 量 |

(製 法)

精製水にビーガムを分散、膨潤後、流動パラフィン、プロピレングリコールを添加し、亜鉛華、カオリンを加え、チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸リチウム、香料、防腐剤を溶解したエチルアルコールを加え、均一なクリーム状になるまでかき混ぜた。

このようにして得たクリーム状の除毛剤入りバックをボディの表面に厚さ約3mmに様に塗り、約10分後洗面所でぬるま湯でこすりながら流したら、その毛が完全に除去された。

<実施例6>

液体の形態で、拭き取り型の除去形式である除毛剤入りバックを以下のような処方、製法で試作した。

(処 方)

| | |
|-----------------|-------|
| メチルセルロース | 3.0% |
| カルボキシビニルポリマー | 1.0% |
| ポリオキシエチレン(15モル) | |
| オレインアルコールエーテル | 1.0% |
| トリエタノールアミン | 1.0% |
| チオグリコール酸カルシウム | 6.0% |
| 水酸化ナトリウム | 1.0% |
| エチルアルコール | 4.0% |
| 精製水 | 83.0% |
| 香 料 | 適 量 |
| 防腐剤 | 適 量 |

(製 法)

精製水にメチルセルロース、カルボキシビニルポリマー、チオグリコール酸カルシウム、水酸化ナトリウムを溶解し、ポリオキシエチレン(15モル)オレインアルコールエーテル、香料、防腐剤

| | |
|----------|------|
| チオグリコール酸 | 4.0% |
| 水酸化ナトリウム | 1.0% |
| 香 料 | 適 量 |
| 防腐剤 | 適 量 |

(製 法)

カオリン、タルク、亜鉛華、チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸、水酸化ナトリウムをよく混ぜ合わせ粉末部とした。プロピレングリコールにオリーブ油、ポリオキシエチレン(40モル)ソルビタンモノウラリン酸エステル、香料、防腐剤を溶解させ、これを粉末部に均一に噴霧し、混合した。使用前に化粧水(カーマインローション; 資生堂)と練り混ぜクリーム状にした。

このようにして得たクリーム状の除毛剤入りバックをボディの表面に厚さ約4mmに一樣に塗り、約15分後、ぬるま湯で洗い流したら、その毛が完全に除去された。

<実施例8>

液状の形態で洗い流し型の除去形式である除毛剤入りバックを以下のような処方、製法で試作し

を溶解したエチルアルコールを加え、その後、トリエタノールアミンを加え増粘させた。

このようにして得た液状の除毛剤入りバックをボディの表面に厚さ約0.5mmに一樣に塗り、約5分後、ティシュペーパーで拭き取ったら、その毛が完全に除去された。

<実施例7>

粉末状の形態で化粧水、乳液などと1対1に練り混ぜ、クリーム状の形態とする洗い流し型の除去形式である除毛剤入りバックを以下のような処方、製法で試作した。

(処 方)

| | |
|----------------------|-------|
| カオリン | 47.0% |
| タルク | 17.0% |
| 亜鉛華 | 17.0% |
| オリーブ油 | 2.0% |
| ポリオキシエチレン(40モル)ソルビタン | |
| モノウラリン酸エステル | 1.0% |
| プロピレングリコール | 7.0% |
| チオグリコール酸カルシウム | 4.0% |

た。

(処 方) …ボディ用

| | |
|---------------------|-------|
| ポリビニルピロリドン | 38.0% |
| ポリエチレングリコール1500 | 5.0% |
| グリセリン | 4.0% |
| ポリオキシエチレン(20モル)ラウリル | |
| アルコールエーテル | 2.0% |
| チオグリコール酸カルシウム | 7.0% |
| エチルアルコール | 28.0% |
| 精製水 | 16.0% |
| 香 料 | 適 量 |

(製 法)

精製水にポリエチレングリコール1500、グリセリン、チオグリコール酸カルシウムを加え溶解し、ポリオキシエチレンラウリルアルコールエーテル、香料を溶解したエチルアルコールをこれに加えかき混ぜて可溶化を行った。次にポリビニルピロリドンを徐々に加えかき混ぜながら溶解した。

このようにして得た液状のボディ用の除毛剤入りバックを肩から腕にかけて厚さ約0.4mmに一樣

に塗り、約5分後、ぬるま湯をかけてマッサージしながら洗い流したら、肩から腕にかけての毛が完全に除去された。

(発明の効果)

以上の構成、作用により、バックの顔やボディの美容・健康を保持する効能と除毛化粧料の顔やボディの毛を除去する効能の2つの効能を同時に有する全く新規な化粧品が提供することができるようになったと共に従来のバックにおいてピールオフ型のものはピールオフする時、毛と一緒に吸着されるため痛みを伴う場合があったが、その欠点をも克服した画期的効果を有した化粧品が提供可能となった。

出願人 三田尻化学工業株式会社
代理人 弁理士 平 木 祐 輔
同 弁理士 石 井 貞 次